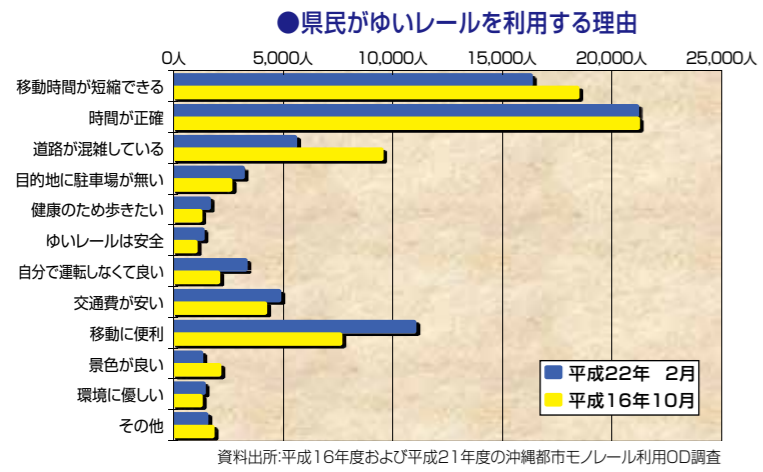


乗客数9000万人を超えた ゆいレール

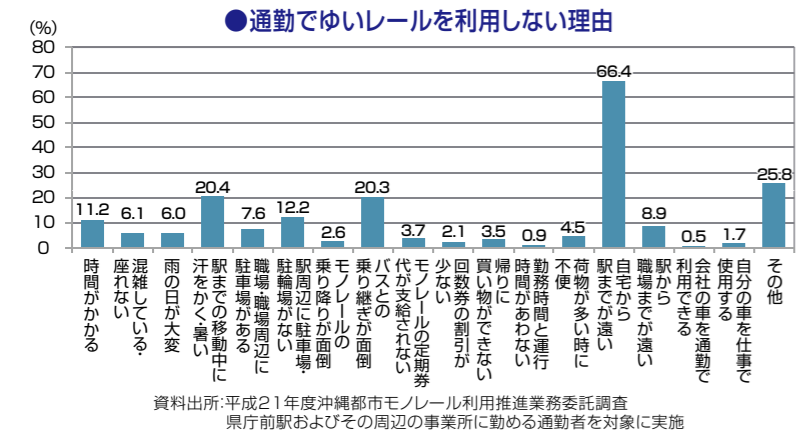


沖縄県唯一の軌道交通として導入されたゆいレールは8月10日に開業7周年を迎えます。乗客数も7月に9000万人を突破し、来春には1億人達成が視野に入ってきました。ゆいレールのいまと課題、未来(予想)をお伝えします。



県民の意識の変化

ゆいレール開業約一年後の平成十六年十月と平成二十二年二月に、県民の「ゆいレールを利用する理由」に関する意識調査を行いました。それによると、平成二十二年の県民の意識は「移動時間が短縮できる」「道路が混雑している」という理由が平成十六年に比べて減り、「移動に便利」「自分で運転しなくて良い」という理由が増加しており、県民の公共交通への意識が変化してきていることがわかります。



県民からの要望

今では、すっかり沖縄の風景に溶け込んだゆいレールですが、課題もあります。左図によると、通勤でゆいレールを利用しない理由として、「自宅から駅までが遠い」「駅までの移動が長い」という理由が圧倒的に多くなっており、多くの人が自宅から駅までのアクセスの改善を望んでいます。県では、こうした県民の自宅から駅までの移動がより便利になるかについて検討を進めています。



ゆいレールの未来

現在の終点の首里駅は、駅周辺のスペースが狭く、他の交通機関との乗継機能が不十分な状況です。また、依然として那覇都市圏の交通渋滞は深刻化しています。こうしたことから、現在、ゆいレールの浦添市への延長に向けた調査設計を進めています(左図参照)。

ゆいレール通信のご案内

県都市計画・モノレール課では、毎月インターネットでゆいレールに関する情報を配信しています。閲覧は、沖縄県ホームページ・県庁内組織一覧・県都市計画・モノレール課からご覧ください。

ゆいレールの概要

名称: 沖縄都市モノレール(愛称 ゆいレール)
 区間: 那覇空港駅~首里駅(営業キロ12.9km)
 駅数: 15駅
 所要時間: 片道27分
 車両編成: 1編成2両で定員165人(2両合計)
 速度: 平均速度28km、最高速度65km
 開業: 平成15年8月10日

ゆいレール導入の経緯

戦後の沖縄では人々の移動手段は自動車を中心となりましたが、特に那覇を中心とした都心部は人口や産業の集中に道路整備が追いつかず、慢性的な交通渋滞が発生していました。このような交通渋滞を改善し、健全な都市機能の維持・発展を図るため、鉄道の導入が検討され、平成十五年八月、沖縄にモノレールが導入されました。モノレールは、定時・定速で走り、排気ガスを出さないなど今では県民の通勤、通学や観光客の足として定着しています。

ゆいレールの乗客数

ゆいレールの一日平均乗客数は、平成十九年度に三万七千七百十三人を達成したものの、平成二十年後半からの世界的な景気後退や新型インフルエンザの影響で、平成二十一年度には三万五千二百七十二人に減少しました。しかし、平成二十二年に入ってから景気の持ち直しや新奥武山野球場でのイベント開催等により、乗客数は回復傾向となっております。

お問い合わせ 県都市計画・モノレール課 TEL:098-866-2408 FAX:098-866-5938